

2019年度（令和元年度）
事業報告書

社会福祉法人 豊友会

2019年度(令和元年度)事業報告

概 要

2019年度(令和元年度)は、法人設立20周年を迎えた。

2020年当初より新型コロナウイルスの予防、対応について、各種の取り組みを行い、2020年度4月よりも、緊急事態宣言の発出など従来の取り組みではカバーできない事象が頻発し、法人及び施設としての取り組みについて、検討を加えることとなった。

保育園、こども園、児童館は学校休校措置中も開園するなどの対応については、職員が非常に苦慮しながらも、力を合わせて、懸命に保育・教育し、今のところ対策が功を奏していると思われるが、状況に応じて、引き続き迅速な対応を心掛けたい。

日常保育・教育については、保育・教育目標を大切に、PDCAサイクルの徹底を図り、充実度は増していると考えられるが、役職員数が増加し、意思疎通、情報共有が難しい側面もあることから、なお一層の体制取り組みが必要である。

研修等については、積極的に取り組み、専門性の向上には役立っており、今後、フィードバックの強化等を図り、全体の底上げを図りたい。また、自己啓発、チーム力向上、コミュニケーション能力の向上、感性育成、さらにメンタルヘルスケア、産業医への相談、コンプライアンス研修なども積極的に取り組んできた。

2019年度に策定したキャリアパスに伴う各種取り組みについて、2020年度には、神戸地区で施行する予定であるが、コロナ対応の影響もあり、慎重に取り扱うこととしたい。

求人については、神戸地区は堅調に推移しているものの、豊岡地区、首都圏は苦戦しており、人的資源の強化、ウェブ環境の改善等を早急に取り組む必要がある。

豊岡地区においては、2019年4月に小規模保育所スプリングハウス保育園が開園し、乳児保育の充実を図っている。首都圏エリアにおいては、こじか保育園の契約更改にあたり、入札に落選する結果となり、今後の課題として取り組みたい。その一方で、さいたま保育園において定員増、諏訪ひかり保育園の認定こども園化について、協議が行われ、保育士確保、育成に努めた。

神戸地区においては、2020年4月に開設した村雨こども園なぎさ分園の開設準備に取り組むと同時に、2020年4月神戸市須磨区役所内に開設される「おやこふらっとひろば須磨」の運営受託が決定し、併せて準備、取り組みの検討を行ってきた。

最後に、法人としての積年の課題である、管理職・中堅職研修については、十分な実践ができておらず、2020年度には具体的な取り組みを行っていくこととしたい。法人運営に関しては、本部機能と施設機能の分担、機能強化をなお一層図り、ガバナンスの観点からも常に改善、整備に努めていくこととしたい。

1 業務報告

本法人においては、各地域の特性を活かした社会福祉事業及び公益事業を行うと共に、園児や保護者のニーズに対応した事業展開を基本として取り組んでいる。

2020年（令和2年）3月末日現在で、社会福祉事業として、チャイルドハウス保育園、テラスハウス保育園、スマイリーハウス保育園、スプリングハウス保育園、村雨こども園、村雨こども園愛分園、村雨ほほえみ保育園、諏訪ひかり保育園、松風児童館、松風児童館分館と、公益事業としては、放課後児童クラブキッズガーデン、さいたま保育園（埼玉病院院内保育所）、こじか保育園（下志津病院院内保育所）、つくしんぼ保育所（国府台病院院内保育所）計13施設の経営を行っており、なお一層の環境充実を図ることとしたい。

2019年度は、園整備等について、土地買収、園舎整備を3か所で行った。

- ① 村雨こども園なぎさ分園の土地買収・園舎整備
- ② スプリングハウス保育園近隣地買収、駐車場、園庭として活用
- ③ チャイルドハウス保育園隣地土地買収・園庭整備、マンション収益事業

なお、2020年4月時点においては、こじか保育園が契約終了する一方で、村雨こども園なぎさ分園、おやかふらっとひろば須磨を開設予定である。

1-1 社会福祉事業

保育園事業に関しては、各園とも概ね順調に推移している。

チャイルドハウス保育園においては、2021年4月の認定こども園化を視野に、隣地を買収し、一部を園庭として整備を図った。定員130名に対して、170名超の園児となり、恒常的に定員120%（156名）以上の超過状態となっている。テラスハウス保育園に関しては、定員48名に対して、定員110%程度の園児数となっている。豊岡市街地において、待機児童が増えており、法人としても対応が求められ、小規模保育事業としてスマイリーハウス保育園、スプリングハウス保育園を開園し、待機児童対策の一助となっている。病児・病後児保育については、年間470名超の利用があり、目標である400名以上の目標に到達した。子育て支援事業においては、0歳児～2歳児を対象とした子育てサロンのリニューアルを行うとともに、3歳児の体験保育事業を行い、年間平均で30組程度の利用があった。

村雨こども園に関しては、幼保連携型認定こども園へ移行3年が経過し、愛分園を含む定員は147名であるが、園児数は平均170名となっている。

松風児童館に関しては、年間延べ25,600名を超える利用者があった。子育て支援に関しては、平均23組の登録があり、定期的に通園している。平成30年4月に開設した分館を含む学童児童数は最大で151名となっている。保育園と児童館の合築施設の良さを活かしつつ、近隣地域若しくは西須磨小学校等の近隣の小学校との連携を深めている。

諏訪ひかり保育園に関しては、園児数は平均95名で、定員（80名）を上回る園児数となっている。病児・病後児保育室に関しては、142名の利用であり、周知が進んでいる。

1-2 公益事業

放課後児童クラブキッズガーデンに関しては、平成24年4月より運営をはじめ9年目を迎え、平均児童数56名となっている。保育・教育内容に関しては、新たなカリキュラムを設置し、一層の充実を図っている。

独立行政法人国立病院機構埼玉病院より院内保育所「さいたま保育園」、独立行政法人国立病院機構下志津病院より院内保育所「こじか保育園」、国立研究開発法人国立病院国際医療研究センター国府台病院より院内保育所「つくしんぼ保育園」の保育業務の運営委託を受け、いずれの施設も順調に経営を行っている。なお、こじか保育園については、2020年3月で契約が終了となる。

1-3 収益事業

従来より賃借していたチャイルドハウス保育園隣地にある駐車場を、貸主より売却の打診があり、2019年7月、敷地内の駐車場、3階建アパートを買収した。駐車場の一部はチャイルドハウス保育園園庭へ転用したが、アパートには買収前からの入居者があり、これらの入居者を対象とした不動産賃貸を収益事業とする。

1-4 第三者評価

2018年度に、諏訪ひかり保育園において、第三者評価を受審し、マニュアル等を再検討し、概ねA評価であった。他地域においても、受審を検討するとともに、中・長期計画の策定など、見通しを持った園運営を心掛けることが重要である。

1-5 研修活動

キャリアパスに合致した研修プログラムの充実を図ることとしたい。現在では、各職員のニーズに合わせた研修を行っているが、体系的な側面が欠けており、早急な対応が求められる。

法人としては、弁護士によるコンプライアンス研修を継続し、産業医によるメンタルヘルス研修を実施した。

各こども園、保育園、施設での研修に関しては、地域性や特性を活かし、それぞれの取り組み、展開を行っており、各職員の資質向上、目的に合致した研修内容となるよう取り組んでいる。従来からも各種の研究大会、セミナーに積極的に参加しているが、フィードバックが重要であり、園内研修などへの取り組みを行っている。本部としては、ガバナンス、会計をはじめとする諸規定改善に関する研修会、勉強会に継続して、積極的に参加している。

業務効率化に向けて、継続して、全職員のIT技能の修得、ホームページなどの更新技術の向上を行うと共に、コミュニケーション能力の向上に向けた取り組みを行っている。

今後は新入職員研修の継続性、チューター制度の充実による意思疎通改善などシステムとして、対応していきたい。

1-6 法人運営

法人運営について、理事会を8回、評議員会2回、コンプライアンス委員会を3回開催し、さまざまな課題について協議を重ねた。

法人役職員も合計281名となり、コンプライアンス、ガバナンスの観点からも法人本部としての機能の強化を図っているが、施設との役割分担、効率化など十分な対応と言えず、検討を重ねている現状にある。

2 経営報告と今後の課題

法人全体としての事業活動収入は13億5,489万円（前年度11億922万円）、事業活動支出は11億9,551万円（前年度10億6,741万円）、事業活動収支は1億5,938万円（前年度4,180万円）となり、事業活動外収支を加味した経常収支は、1億5,452万円（前年度3,932万円）の経常収支プラスとなっている。

昨年度対比に関しては、収入ベースで2億4,567万円の増加、事業活動収支ベースで1億1,757万円の増加となっている。

事業収支については、施設の増加に伴い、増収となっている一方で、経費節減に努め、収支改善に結びついている。一方で、園舎整備、人件費増などへの取り組みにより、短期借入金が増加している現状にある。

2020年度予算では、事業活動収入13億1,875万円、事業活動収支1億976万円の計画である。

3 社会福祉事業

3-1 チャイルドハウス保育園

(1) 保育・運営

2019年度も引き続き3～5歳児が2クラス制となり、2021年度認定こども園への移行を視野に入れ、教育・保育の充実に重点をおいた。3～5歳児に関しては、「子どもたちが主体となる保育」が展開できる保育内容、環境構成の工夫を、日々検討しながら保育を行っている。

地域との連携・交流に関しては、小学校接続はもちろんのこと、近隣の高齢者施設・企業訪問、地藏盆の参加等、積極的に交流を図った。今年度も「トライやる・ウィーク」や中高生の育児体験・ボランティア活動等も受け入れ、11月には毎月1回実施している避難訓練を豊岡北中学校と連携して行った。

広報活動に関しては、ホームページでのブログを再開し、地域に対しても情報発信をこまめに行った。

「豊岡市保育士等確保推進事業」のモデル園となり2年目を迎え、本格的に「保育の質の向上」「業務改革」に取り組んだ。新入保育職員向けマニュアルの作成、保育補助の配置、園務員の増員、早番遅番の固定配置を行うことで、ノンコンタクトタイム（保育を振り返る時間保育）を確保することができ、保育改善につながった。又、ICT化により保育支援システム キッズリーを導入し、保護者との連携・事務時間の短縮に繋がっている。

2019年度 チャイルドハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	3	10	9	53	51	44	170
5月	3	10	9	53	51	44	170
6月	4	10	9	53	51	44	171
7月	4	10	9	53	51	44	171
8月	4	10	9	53	51	44	171
9月	5	10	9	53	51	44	172
10月	5	10	8	53	51	44	171
11月	6	10	8	55	51	44	174
12月	6	10	8	55	51	44	174
1月	6	10	8	55	51	44	174
2月	6	10	8	55	51	44	175
3月	6	11	9	55	51	44	176
平均(人)	4.83	10.08	8.58	53.83	51.00	44.00	172.42

(2) 子育て支援事業

子育て支援事業については、乳児を対象とした地域の子育て家庭が集える子育てサロン「わくわくの森」と改称しリニューアルオープンした。また、3歳児を対象に体験保育事業を行った。子育てサロンでは、交流の場となるよう年齢に応じた環境作りを行うとともに、気軽に育児相談できるような雰囲気づくりを心がけた。3歳児の体験保育事業については、個々の発達段階に応じて、在園児と同様の体験が出来る保育を行った。

また、毎土曜日の園庭解放を随時行った。

地域コミュニティについては、1回の開催となった。

2019年度 子育て支援センター チャイルドハウス・わくわくの森登録数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計(人)
5月	5	5	9	16	35
6月	4	5	9	16	34
7月	2	5	9	16	32
8月	2	5	5	16	28
9月	2	4	6	16	28
10月	2	4	6	16	28
11月	2	4	7	16	29
12月	2	4	7	16	29
1月	2	3	7	15	27

2月	2	3	7	15	27
3月	2	3	7	15	27
平均	2.5	4.1	7.2	15.7	29.5

2019年度 地域コミュニティ実績報告

日時	内容	場所	参加状況
12/19(木) 13:30~16:00	手作りケーキで メリークリスマス!	豊岡エネルギー	3組

(3) 病児病後児センター「チャイルドケアセンター」

今年度の利用者数は478名であった。感染症は自園や小学生の利用者が比較的に多いが、その他の疾患については他園在籍児の利用が多かった。引き続き、医療機関と連携をとりながら、保育看護の充実を図っていく。又、衛生管理の徹底をより一層図っていく上での環境整備を整えていった。

2019年度 チャイルドケアセンター利用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
人数	36	36	49	58	35	40
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	62	42	49	29	15	27
合計	478名					

(4) 一時預かり事業

本事業の実施が広く周知され、年間利用者がのべ1,069人であった。就労理由、私的理由共に、定期的なニーズが高く、受け入れ制限することもあった。在園児との連携を踏まえ、個々の発育状況などを把握し、今後も安全、安心して預けられるよう、地域貢献の一つとして行っていきたい。

2019年度 チャイルドハウス保育園一時保育実績

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	1	1	4	74	3	9	92
5月	0	6	9	71	0	2	88
6月	1	0	3	65	11	1	81
7月	0	0	15	79	18	6	118
8月	0	1	10	52	6	6	75
9月	0	2	18	58	0	0	78
10月	0	3	22	81	0	0	106
11月	0	7	26	60	0	1	94
12月	4	6	18	68	0	3	99

1月	1	8	15	55	0	0	79
2月	1	11	18	54	0	0	84
3月	5	6	20	43	0	1	75
合計(人)	13	51	178	760	38	29	1,069

(5) 職員研修

月1回「豊岡市保育士等確保推進事業」の専門講師による園内研修を行い、保育の質の向上を図った。豊岡エリアの4園内で、各々の立ち位置からの保育スキルの向上を図る為に「交流研修」を取り入れた。又、外部研修として、キャリアアップ研修の受講・豊岡市の「スタンダード・カリキュラム」「すくすくプログラム」を活用した公開保育研修への参加を積極的に行った。

3-2 テラスハウス保育園

(1) 保育・運営

育休復帰制度が社会的に浸透してきたのか、0歳児は産休復帰での入所希望者がなく、定員になかなか満たなかった。1.2歳児は育休復帰での入所希望者が多く、定員超過の状況での園児受入れが続いている。子どもたちの成長過程に応じた保育室の環境を工夫しながら、子どもの興味・関心を大切にし、ひとり一人の気持ちに应答的に応える保育を行っていった。9月には、豊岡市の「スタンダード・カリキュラム」「すくすくプログラム」を活用した公開保育を実施し、豊岡市のアドバイザー、他園の保育士の方々との意見交換を行うことにより、保育の質への向上へつなげていった。また、年々保護者支援を要する家庭が増加傾向にある。専門機関との連携を密に保護者支援を行った。

地域の保護者・子育て支援の取り組みとして、情報配信にも力を入れた。毎週、年齢ごとの保育の様子をホームページ・ブログに掲載し、皆さんへ教育・保育内容の理解していただけるように努めた。その他に、2か月に1回の公開保育を試みた。利用者は少なかったものの、地域に方が集う園となるよう継続していきたい。

2019年度 テラスハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
4月	5	19	22	46
5月	5	21	22	48
6月	5	22	22	49
7月	6	22	22	50
8月	6	22	21	49
9月	7	21	21	49
10月	8	21	22	51
11月	9	21	22	52

12月	10	21	22	53
1月	11	21	22	54
2月	11	21	22	54
3月	11	21	22	54
平均(人)	7.8	21.1	21.8	50.8

2019年度 テラスハウス保育園一時保育実績

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
4月	0	2	1	3
5月	0	1	4	5
6月	2	3	1	6
7月	8	0	4	12
8月	6	0	1	7
9月	6	1	2	9
10月	7	0	3	10
11月	11	1	7	19
12月	8	5	6	19
1月	7	5	10	22
2月	7	5	7	19
3月	13	8	7	28
合計(人)	75	31	53	159

(2) 職員研修

「エピソード記録」を作成し、保育者間の話し合いによって生まれる気づきが子ども理解を深め、次の保育実践につながるよう「エピソード研修」を取り入れた。また、会議前の短時間を利用しての実技研修、希望者は、法人独自のピアノ研修も行った。その他、キャリアアップ研修等の外部研修にも積極的に参加した。

3-3 スマイリーハウス保育園

(1) 保育・運営

開園2年目となり、4月より定員を満了した状態でのスタートとなった。「一人ひとりに寄り添った丁寧な保育」を保育方針とし、保育のあり方や施設環境を踏まえた職員連携等課題点を洗い出し、より良い保育実践と質の向上に努めた。

安全対策にも力を入れた。その1つが、ヒヤリハット報告の定着である。大きな事故を未然に防ぐためにはヒヤリハット報告は重要なウエイトを占めるものであるが、職員の認識は低い傾向にあったため、その大切さを伝え、報告の仕方にも工夫を凝らした。その結果、毎月10件近くの事例が上がり、改善策を

講じることができた。また 10 月からは、0 歳児を対象に午睡センサーの導入を開始する。機器による午睡チェックを主軸に、保育者もチェックを行う「ダブルチェック体制」となったことで、より確実に呼吸や状態確認ができるようになり、子どもにとっても保育者にとっても更なる安心・安全につながった。また、事務効率の向上にもつながっており、保育業務にも好影響を与えた。

地域との連携・交流については、チャイルドハウス保育園の子育て支援事業として実施している子育てサロン来室親子と一緒に「焼いもパーティ」を行った。同年齢の子ども姿や保育者の関わりを目の当たりにする機会がもてたことで、育児情報の発信をすることができた。また、大岡学園との避難訓練を 6 月に実施、キッズガーデン児童との交流も行った。

2019 年度 スマイリーハウス保育園園児人数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合 計
4 月	6	8	6	20
5 月	6	8	6	20
6 月	6	8	6	20
7 月	6	8	6	20
8 月	6	8	6	20
9 月	6	8	7	21
10 月	6	8	7	21
11 月	6	8	7	21
12 月	6	7	7	20
1 月	6	6	7	19
2 月	6	7	6	19
3 月	6	7	6	19
平均 (人)	6	7.6	6.4	20

(2) 一時預かり事業

年間利用延べ人数は 90 名であった。利用者の多くはリピーターであり、中には入園に繋がるケースもあったが、周知が図られている状態であるとは言えない。次年度も引き続き園の事業として、広く周知していく必要があると感じている。

2019 年度 スマイリーハウス保育園一時保育実績

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合 計
4 月	0	3	0	3
5 月	0	2	2	4
6 月	0	2	0	2
7 月	0	8	0	8
8 月	0	7	0	7

9月	2	9	1	12
10月	4	9	2	15
11月	2	7	2	11
12月	4	5	1	10
1月	3	5	0	8
2月	0	1	2	3
3月	3	4	0	7
合計	18	62	10	90

(3) 職員研修

新採用職員を対象として、ピアノ研修など実技研修を行い、保育の質の向上を目指した。中堅職員については、キャリアアップ研修を積極的に受講し、職員自身のスキルアップに繋げた。

また、およそ半年をかけてマニュアルの見直しも行った。マニュアル内容と現行手法に相違がないか、保育環境とのミスマッチが生じていないか、新たな考え方や情報との乖離がないか等を保育、栄養、看護それぞれの専門分野の視点からしっかりと見直したうえで、職員間で意見交換をし、共通理解のもとまとめ上げた。

3-4 スプリングハウス保育園

(1) 保育・運営

2019年4月に定員15名の小規模保育園として開園した。(園庭外構は、11月完成)市街地の中心部は、高齢化が進んでいるが周りに公園も多く、天気の良い日には積極的に出かけ外気浴や自然に触れる機会を多く持った。

大きな行事等は、4園合同で行い園児交流を深め、2歳児は来年の進級を意識して定期的に交流を図った。保護者には、保育参加や行事・連絡帳を通して園での子どもたちの様子を把握してもらい理解を深めてもらった。また、災害時の意識を高めてもらうために、引き渡し訓練に取り組んだ。

地域との連携・交流に関しては、地域の方々に積極的に声掛けをし、ハロウィンでは近隣家庭を回り交流を図った。避難訓練の時には、第三避難場所である天理教大教会に行き、実際に避難室まで入室させてもらい本番さながらに対応してもらった。

2019年度 スプリングハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
4月	2	8	6	16
5月	2	8	6	16
6月	2	8	6	16
7月	3	7	6	16
8月	3	7	6	16

9月	3	7	6	16
10月	3	7	6	16
11月	3	7	6	16
12月	3	6	6	15
1月	3	5	6	14
2月	3	5	6	14
3月	3	5	6	14
平均(人)	2.7	6.7	6	15.4

(2) 職員研修

新採用職員を中心に、ピアノ研修など実技研修を行い、保育の質の向上を目指した。キャリアアップ研修や外部研修を受講し、スキルアップを図ると共に園内研修で新たにメンタルヘルス研修やアングーマネジメント研修を行い、セルフケアをアップし職場でのコミュニケーション等につなげた。

3-5 村雨こども園・村雨こども園愛分園（幼保連携型認定こども園）

(1) 施設運営

「幼保連携型認定こども園」へ移行し3年が経過した。「幼保連携型認定こども園」としての、より一層の充実した機能を果たす組織体制や個の育ちを図りながらの、幼児教育における集団教育内容の充実を図った。

1号認定を希望する園児数の増加や、3,4年前からの連携施設である「村雨こども園愛分園」「村雨ほほえみ保育園」からの編入園児により、園児の増加が顕著になり、神戸市子育て支援部振興課整備係と新分園整備経計画の協議に入った。協議の結果、定員30名（0,1,2歳児各3名と3,4,5歳児各7名）の新分園「村雨こども園なぎさ分園」整備に着手した。同時に村雨こども園西側の土地所有者より当園に売却希望があり、本園西側の土地を購入することとなった。海辺にあるこども園の雰囲気全体をモチーフに取り入れた、楽しく明るい3階建て園舎を建設した。

なぎさ分園を新設し園児数の増加に伴うことから、園庭面積を増やすことが必須となり、本園屋上を整備し、屋上園庭も併せて増設した。

また、神戸市各区の区役所内スペースを活用した、地域の子育て家庭のあそびの場づくりと気軽に相談できる場の提供等を目指した「おやこふらっとひろば須磨」の整備が計画された。運営委託事業者選考公募が実施され、村雨こども園と松風児童館共同で公募に応募した。運営委託事業者選考委員会により審査され本園が選定された。以前から職員の子育て支援への取り組み意欲や関心も強く、より一層「村雨こども園」「松風児童館」の職員が一体となって連携し、蓄積してきたノウハウを活かしながら、「子育てが楽しい街づくり」を目指し、社会貢献の一環として地域に根ざした活動を進めていきたいと考えている。

また、ICTによる業務効率化に伴い、桜システム（うえーぶサクラ）のバージョンアップソフトの入れ替えを行い、保育料明細書や銀行口座振り替えの簡素

化、登降園管理からの出席簿作成、預かり保育・延長保育時間と料金管理、要録の作成等、経理事務・保育事務の効率化の強化が図れるよう整備を行った。

保育所実習は、希望養成校が4校に、保育所実習生・幼稚園教育実習生が10名、栄養士実習は、希望養成校1校で栄養士実習生1名の受け入れを行った。今年度の保育所実習生・幼稚園教育実習生の内2名の学生が、新卒職員採用に結びついた。

また、神戸親和女子大学（11月）、関西学院大学、聖和短期大学（6月）へ出向き、保育学内フェアに参加した。本園の教育保育方針や教育保育内容を中心に説明を行い、保育所実習や就職へ繋がる取り組みも行った。

2月末より新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、就職に係る園見学希望生の案内が難しい状況となった。今後を見通してウェブサイトでの就活学生との繋がり方も模索していく必要を感じた。

将来展望できるキャリアパスを構築し、人事評価制度に繋いでいくことを目的とし、株式会社福祉総研の柳先生と小泉社会保険労務士事務所の小泉先生にご意見等を頂きながら検討会議を繰り返し行い、神戸エリアのキャリアパスと人事評価シートが完成した。

4月中旬に小泉社会保険労務士に本園へ出向いていただき、全職員への周知と人事評価者の研修を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止による往来規制で、研修予定が延期になっている。

研修を進めキャリアパス制度の導入を行い、目標や働きがいをもって働ける環境づくりを進めていきたい。

2019年度 村雨こども園（定員135名）・村雨こども園愛分園（定員12名）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	17	26	25	33	34	30	165
5月	18	26	25	33	34	30	166
6月	21	26	26	33	34	31	171
7月	21	26	26	33	34	31	171
8月	21	26	26	33	34	31	171
9月	21	26	26	33	34	30	170
10月	21	26	26	33	34	30	170
11月	21	26	27	33	34	30	171
12月	21	26	27	33	34	30	171
1月	21	26	29	33	34	30	173
2月	21	26	29	33	34	30	173
3月	21	26	29	33	34	30	173
平均	20.4	26	26.7	33	34	30.2	170.4

(2) 教育保育内容について

幼保連携型認定こども園に移行してからの3年間は、各学年のクラス運営と特に教育内容面の充実を図ることを目的として、指導計画作成や実践に取り組んできた。各学年の発達に応じた教材選びや5領域を総合的に取り入れた偏り

のない教育内容の取り組みを行うことができた。

また、2歳児クラスから5歳児クラスの1クラス20名までの各学年2クラスによる学級編成と、幼児クラスの複数担任の導入（チーム保育）が定着し、人的・物的環境整備が効果を成し、一人ひとりに寄り添う丁寧な保育教育を行うことが出来ている。

乳児保育（0,1歳児クラス）においては、一人ひとりに寄り添う丁寧な保育の在り方を、公開保育の機に効果を成して、公開保育事前準備の打合せも含め、職員全体で乳児保育について話し合い深めることができた。

また、より一層の見守り強化のため、ITの導入を行い、0歳児を中心に「乳幼児突然死症候群（SIDS）」対策の強化に取り組んだ。複数職員での睡眠状態の見守りだけでなく、医療機器「午睡センサー」を衣服に付け、「うつ伏せの状態」「体動の停止」等を検知、アラートで通知されるシステムにより、「人の目」と「ITの目」でダブルチェックを行い、園児のより一層の安心、安全に努めることが出来ている。

また、医療的ケアが必要な子どもの対応においては、1歳児から心臓手術を繰り返し、医療的ケアを施してきた園児が、4歳児となり酸素ボンベを外せる状況となった。神戸市子育て支援部看護師と兵庫県立こども病院の富永先生に相談や指導を仰ぎ、酸素ボンベを外した後の医療的ケア内容を連携し、全職員で配慮し日々を過ごしている。酸素ボンベが外せたことで、本児にとって行動範囲は広がったが、低身長で体重も軽く筋力も無いため、集団で行う活動が難しい面も多々ある。本児のペースに合わせ筋力等をつけられるよう配慮していきたい。

神戸市は医療的ケアが必要な子どもの受け入れを、こども園等へも実施していく方向性であり、すこやか対応、医療的対応における体制や研修の必要性が高まる中、関係機関と連携しながら考えていきたい。

「生活発表会（2,3,4,5歳児）」行事あり方の見直しを行い、2部制の入れ替えで行ったが、園児数の増加と観覧者数の増加が激しく観覧方法には課題が残った。

神戸市から3月3日より、新型コロナウイルス感染防止のため家庭保育の要請が発令された。同時に行事の自粛をし、3密の状態を起こさないように周知された。3月のお別れ遠足の中止やお別れ会・お別れバイキング等々の園内行事は縮小し実施することとなった。卒園式は、園児1名に対し保護者1名の出席に制限し、椅子の間隔、ホールの換気、検温、手洗いと消毒、マスクの着用等、十分に注意を払い「卒園証書」と「卒園児のおわかれのことば」、園庭での「在園児の花道」を行い、送り出すことができた。子どもも保護者も一つの節目ができ、時間の制限はあったが、皆が納得できる中味の濃い卒園式となった。

（3）子育て支援事業

毎週月曜日に、村雨こども園の園庭開放「むらさめひろば」と松風児童館の館内開放「なかよしひろば」を利用してもらい、親子でのふれあいの場、親同士の交流の場、ある時は、育児相談の場として多くの子育て親子の来場があった。

特に、「なかよしひろば」の職員が行う“せんせいとあそぼう”は、楽しみに

来られるご家庭が多い。

昨年度から継続している「親子体験保育（0歳児対象）」を今年度も8月に2回シリーズで実施した。地域の親子10組限定で募集し、ふれあい遊び、製作、給食試食と離乳食相談と内容を充実させ実施した。職員が初めて取り組んだベビーマッサージは、とても好評だった。

2019年度 むらさめひろば・なかよしひろば

4月	73	10月	120
5月	71	11月	67
6月	150	12月	111
7月	68	1月	70
8月	35	2月	106
9月	49	3月	6
合 計(人)			926

(4) 一時保育事業

利用ニーズが高いので、一日の受入人数を10名上限に職員配置を行い、地域のニーズに対応し体制を整え実施した。また、育休復帰で入園できなかった1歳以上の園児が利用できる「育休休業明け乳幼児の定期預かり事業（はじめルーム）」も、神戸市より委託され実施した。

利用状況は、非定型保育（就労で保育が必要）利用者が大半だが、子育て不安や子育て疲れ、または精神疾患等がありリフレッシュ保育で利用される保護者も定期的に利用され、必要不可欠な場所となっている。今後も須磨区役所の保健師と連携し見守りを行っていききたい。

2019年度 村雨こども園 一時保育利用状況

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計(人)
4月	85	5	8	98
5月	85	2	11	98
6月	87	7	14	108
7月	110	7	19	136
8月	88	4	14	106
9月	110	0	13	123
10月	118	2	13	133
11月	112	4	13	129
12月	102	3	18	123
1月	101	2	24	127
2月	96	6	21	123
3月	90	1	9	100
合計	1184	43	177	1404

(5) 研修

- ・今年度は、年間指導計画の見直しを中堅職員で行い、各学年の発達の見通しと各年齢の教育保育内容の充実を中心に討議し、年間指導計画

の内容充実を図った。

- ・キャリアアップ研修も随時、経験 3 年目以上の職員が順調に受講している。

キャリアアップ研修のマネジメント研修で習得した内容を、1, 2, 3 年目の職員への研修指導に入れ、文章を読んでの創造性や見え方、考え方の違いを発表し合い、コミュニケーション能力を高めた。

- ・神戸市乳幼児研究部会の公開保育実施園に依頼され、0 歳児の公開保育を本園で行い、公立私立のこども園、保育所等々の職員に出席頂き、保育実践を公開した。保育実践見学後は、グループ討議に入り研修を深めた。

本園職員にとっても指導計画作成から環境構成等準備期間から、職員同士の保育の質を高める機会を与えられた公開保育となった。

- ・リバプール大学心理学部研究員の埼玉県出身の川上さんから、「ことばの発達調査」の依頼があった。全国の保育所等で、1 年間ランダムに訪問され、2 歳から 4 歳年齢の子どもの「ことばの発達データ」を収集し、研究に生かされている。園児の保護者に同意を取り、子ども達は個別にことばの発達検査を受けた。

研究データの結果は、研究がまとめられてからになるが、「ことばの発達」という分野において、ことばの発達が高い、緩やかだけではなく改めて一人一人のことばに耳を傾ける機会となった。

3-6 村雨ほほえみ保育園（小規模保育事業）

(1) 運営について

開園して 3 年目。0 歳児が 5 名からのスタートで、12 月に転園の為退園者があった為、在園児 18 名の月が多かった。年度途中での職員の退職・入職があり、村雨こども園より助言を受け職員への指導や対応を行った。

(2) 保育内容について

3 年目を迎え、0 歳児から入園した子ども達が 2 歳児になり、3 年間の発達・成長過程を見ながら保育に取り組むことができた。

村雨こども園からの指導・助言を受け、保育検討会・行事の内容の見直しや検討を行った。また、外部研修に参加できる回数が限られていることもあり、園内研修の実施や内容を検討している。

2019 年度 村雨ほほえみ保育園（定員 19 名）園児数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合計 (人)
4 月	5	7	6	18
5 月	5	7	6	18
6 月	5	7	6	18
7 月	5	7	6	18
8 月	6	7	6	19
9 月	6	7	6	19

10月	6	7	6	19
11月	6	7	6	19
12月	6	7	6	19
1月	6	7	5	18
2月	6	7	5	18
3月	6	7	5	18
平均	5.6	7	5.8	18.4

(3)一時保育事業について

年度の後半より就労による非定型保育の利用があり、利用数が増えたが、登録のみ行き実際には利用のないケースも多かった。

2019年度 村雨ほほえみ保育園 一時保育利用状況

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計(人)
4月	8	0	0	8
5月	10	0	1	11
6月	12	0	2	14
7月	9	2	5	16
8月	7	4	1	12
9月	5	1	0	6
10月	7	1	0	8
11月	9	1	2	12
12月	13	4	2	19
1月	14	1	3	18
2月	22	1	5	28
3月	20	0	0	20
合計	136	15	21	172

3-7 松風児童館

今年度もより多くの地域の方々に来館していただき、心地よく楽しく遊べる場であるようにと考え、さまざまな行事やプログラムを実施した。参加していただきやすくするために行事の内容や申込の仕方などをわかりやすく見てもらえる「お知らせスペース」を作り、学校休業日でも乳幼児親子と小学生が分かれてゆったりと遊べるスペースづくりのため環境整備を工夫するなどして来館者の増加につなげることができた。

また、新たに小学生と乳幼児親子がお店屋さんとお客さんとして楽しみながら世代間交流ができる夏祭りを行い、児童館の存在や役割を知っていただくこともできた。

2019年度 松風児童館利用状況（2019年4月～2020年3月）

月	来館利用人員(人)								学童
	幼児	小学生				中高生	大人	合計	在籍数 (人)
		1～3年		4～6年					
		一般	学童	一般	学童				
4	63	78	1880	22	244	1	64	2352	142
5	109	46	1709	18	172	2	127	2183	141
6	180	54	1792	12	137	1	169	2345	139
7	146	75	2059	48	184	0	169	2681	141
8	27	45	1662	45	157	4	26	1966	136
9	162	46	1673	15	99	0	159	2154	131
10	241	86	1823	50	89	5	222	2516	130
11	144	49	1738	1	82	10	138	2162	128
12	161	54	1709	4	75	2	179	2184	125
1	126	31	1531	4	70	0	111	1873	121
2	159	43	1493	7	60	4	179	1945	121
3	3	0	1287	1	32	0	3	1326	120
合計	1521	607	20356	227	1401	29	1546	25687	

(1)親子館事業内容、状況報告

児童館の子育て支援がどのようなものなのか、より多くの方に知っていただき、気軽に利用していただけるよう登録制のクラスの行事に地域の親子を招待したり、児童館ならではのダイナミックな遊び、集団で楽しめる遊びを提供し喜ばれている。

今年度の新たな取り組みとしては、乳幼児親子向けの防災プログラムを実施した。日頃、防災について学ぶ機会の少ない乳幼児親子に遊びを通して災害時の対応を知ってもらうことができたり、家庭で話し合うきっかけとなったと好評だった。

身近で安心して遊べる場所として利用数も増えているが、低年齢から幼稚園のプレ保育に通う家庭が多い地域性があり、支援の在り方には課題もある。

2019年度 松風児童館 親子間事業報告

クラブ名	対象者	時間	料金等	内容
なかよしひろば	0歳児～ 就学前乳幼児親子	毎週月曜日 9:30～12:00	無料 自由参加	大型遊具で自由遊び
むらさめひろば	0歳児～ 就学前乳幼児親子	毎週月曜日 9:30～12:00	無料 自由参加	村雨こども園 園庭で自由遊び
せんせいとあそび	0歳児～ 就学前乳幼児親子	なかよしひろばの日 11:00～11:20	自由参加	たいそうや手遊び 絵本読み聞かせなど

おべんとうひろば	0歳児～ 就学前乳幼児親子	なかよしひろばの日 11:30～12:00	自由参加	親子で昼食 (おべんとう持参)
ベビーメイト (0歳児サロン)	0歳児親子	毎週火曜日 10:30～11:30	月会費2,500円 登録制20組	親子のふれあい遊び、 ママ工作・発育測定など
ヨチヨチメイト (1歳児サロン)	1歳児親子	毎週水曜日 10:30～11:30	月会費2,500円 登録制20組	親子のふれあい遊び 季節の遊び・簡単工作など
すこやかクラブ	2～4歳児親子	毎週木曜日 10:30～11:30	年会費3,000円 登録制25組	親子のふれあい遊び、 季節の遊び・体操遊びなど
キッズクラブ	すこやかクラブに 登録している親子	10:00～12:00	無料	子どもを預かるキッズママと お出かけするママに分かれて ママのリフレッシュを応援

2019年度 子育て支援センター「すくすく」登録組数

(2019年5月～2020年3月)

月	ベビーメイト (組)	ヨチヨチメイト (組)	すこやかクラブ (組)	合計 (組)
5	5	5	12	22
6	7	6	11	24
7	7	6	11	24
9	7	6	11	24
10	7	6	11	24
11	7	5	11	23
12	7	5	11	23
1	6	5	10	21
2	6	5	9	20
3	6	5	9	20
平均	6.5	5.4	10.6	22.5

2019年度 自由来館子育て支援事業

クラブ名	活動内容	期 間	参加延べ人数
なかよしひろば	室内自由遊び	毎週月曜日	891人
	せんせいとあそぼ		724人
	むらさめひろば		266人
	おべんとうひろば		2人

(2) 児童健全育成事業内容・状況について

来館者の行事参加が増え、学童数の増加もあるため、安全に楽しく遊ぶことができるよう学年別に予定を組むなど内容を工夫した。

新たな取り組みとして、ひとつのことに継続して取り組めるチャレンジゲームを毎月取り入れ、これまでの行事プログラムをさらに多種多様なものとし、子どもの興味や好奇心、発想がより豊かになるようにした。また地域と

の連携行事も取り入れ、親子や子どもたちのコミュニティーの広がりを目指した。

2019年度 児童健全育成事業報告

月	事業名 (参加者数)
4	カレンダーづくり (26名) チャレンジゲーム (19名) 鬼ごっこデー2年以上 (21名) ドッチデー2年以上 (20名)
5	チャレンジデー(28名) カレンダー作り(35名) なわとびデー2年以上 (14名) なわとびデー1年 (7名) じゃんけん大会 (18名) カレンダー作り (30名) チャレンジゲーム (14名) ドッチデー2年以上 (27名) 鬼ごっこデー(38名)つくってあそぼう (20名) こどもフェスタ参加
6	なわとびデー2年以上 (21名) なわとびデー1年 (13名) パラバルーンあそび (38名) カレンダー作り (40名) 鬼ごっこデー1年 (20名) 避難訓練 (25名) チャレンジゲーム (30名) 世代間交流みんなで一緒にあそぼう (40名)
7	七夕工作(46名) カレンダー作り(25名)チャレンジゲーム (19名) ドッチデー (19名) なつまつり (103名) トランポロビックス (40名) チャレンジゲーム大会 (117名) 運営委員会
8	交通安全教室(97名) 鬼ごっこデー2年以上 (16名) こわいおはなしの会(65名) さかなづくり(35名) ドッチデー2年以上 (20名) チャレンジゲーム (16名) カレンダー作り(17名) 源平夏祭り出店参加
9	なわとびデー2年以上 (20名) なわとびデー1年 (6名) つくってあそぼう (34名) チャレンジゲーム (20名) カレンダー作り(29名) ミニ運動会 (30名)
10	チャレンジゲーム (16名) ドッチデー1年 (17名) カレンダー作り(22名) ハロウィン工作(70名) ハロウィンパーティー乳幼児の部 (88名) 小学生の部 (99名) 須磨区児童館合同行事グリーンフェスタこうべ 2019 参加
11	秋の自然物工作(30名)トライやる受け入れ (1名 5日間) 中学生とあそぼう (16名) 新聞紙であそぼう (24名) カレンダー作り(29名) チャレンジゲーム(21名) 鬼ごっこデー2年以上(13名)なわとびデー1年 (11名) なわとびデー2年以上 (12名)
12	クリスマス工作 (46名) クリスマス会 乳幼児親子の部(78名)小学生の部 (60名) カレンダー作り(17名) クリーン大作戦(82名) チャレンジゲーム (18名)
1	新春チャレンジゲーム大会(64名) カレンダー作り(31名) プレゼント工作 (85名) 鬼ごっこデー (11名) なわとびデー (24名) ドッチデー (28名)
2	地域敬老交流会への参加(77名) バレンタイン工作(56名)チャレンジゲーム (18名) ふうせんであそぼう (29名) ドッチデー (46名) 鬼ごっこデー (20名) カレンダー作り(22名) なわとびデー (15名)
3	プレゼント工作(20名) 3日より臨時休館のため以降の行事は中止

(3) 松風放課後児童クラブ（学童保育）事業内容、状況報告

在籍数が本館、分館共に前年度を上回る本館 101 名と分館 40 名でのスタートとなった。大人数でも過ごしやすく、ほっとできる場所となるよう、子どもたちと基本的な生活を再確認し、環境を整え工夫した。また、集団が苦手などさまざまな個性をもった子どもが増えていることもあり、ひとりひとりにあった細やかな対応ができるように、これまで以上に職員間、保護者や学校と密に連絡を取り合うようにした。

2019 年度 松風放課後児童クラブ 放課後児童健全育成事業報告

月	行 事	月	行 事
4	<ul style="list-style-type: none"> ・入所式・進級式 ・防犯防災保健指導 「児童館での安全な過ごし方」 ・外あそび ・4月のお誕生会 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・学童交流外あそび ・防犯防災保健指導 「帰り道の注意（いかのおすし）」 ・5月のお誕生会
6	<ul style="list-style-type: none"> ・本館・分館交流外あそび ・保護者会 ・6月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「警報や注意報がでたとき」 	7	<ul style="list-style-type: none"> ・個別懇談会 ・7月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「夏休みの過ごし方」
8	<ul style="list-style-type: none"> ・須磨水族園へ遠足 ・8月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「安全な自転車の乗り方」 	9	<ul style="list-style-type: none"> ・9月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「もしも不審者が児童館にきたら」
10	<ul style="list-style-type: none"> ・10月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「帰り道の注意(こども110番)」 	11	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍児童継続調査 ・11月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「公園で遊ぶ時の注意」
12	<ul style="list-style-type: none"> ・学童申込開始 ・12月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「火事がおこったら」 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・入会説明会 ・1月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「地震がおこったら」
2	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老交流会（西須磨小学校） ・2月のお誕生会 ・個人面談 ・防犯防災保健指導 「感染症予防について」 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・3月のお誕生会（縮小開催） ・新年度準備 ・防犯防災保健指導 「家に帰ったら気をつけること」 「感染拡大防止のために」

本館 2019年度学校別・学年別在籍児数 (2019年4月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計(人)
西須磨	24	27	16	11	1	2	81
若 宮	8	5	6	0	0	0	19
神戸大学附属小学校	0	1	0	0	0	0	1
合計(人)	32	33	22	11	1	2	101

(2019年10月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計(人)
西須磨	26	27	16	7	0	0	76
若 宮	8	5	6	0	0	0	19
神戸大学附属小学校	0	1	0	0	0	0	1
合計(人)	34	33	22	7	0	0	96

(2020年3月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計(人)
西須磨	26	26	16	7	0	0	75
若 宮	8	5	6	0	0	0	19
神戸大学附属小学校	0	1	0	0	0	0	1
合計(人)	34	32	22	7	0	0	95

*在籍数…年間の推移は別紙参照 (2019年度松風児童館利用状況)

分館 2019年度学校別・学年別在籍児数 (2019年4月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計(人)
西須磨	8	4	8	1	6	0	27
北須磨	8	3	2	0	0	0	13
合計(人)	16	7	5	1	6	0	40

(2019年10月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計(人)
西須磨	10	3	7	0	3	0	23
北須磨	8	1	2	0	0	0	11
合計(人)	18	4	9	0	3	0	34

(2019年3月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計(人)
西須磨	8	3	4	0	1	0	16
北須磨	8	0	1	0	0	0	9
合計(人)	16	3	5	0	1	0	25

*在籍数…年間の推移は別紙参照 (2019年度松風児童館利用状況)

3-8 諏訪ひかり保育園

(1) 保育・運営

諏訪ひかり保育園は7年目を迎え、引き続き地域からの信頼と期待に応えるた

め、当保育園ならではの地域に密着した保育の実践に取り組み、新たな体制のもと、保育の質の一層の向上と教育の充実に努めた。

また、保育の3本柱「食育・運動・異年齢保育」が定着してきた中、体づくりである運動を強化するため、担当職員が1年を通しての研修に参加し、月々の運動テーマをあげ全職員で体づくりの保育に取り組んだ。

2019年度園児は94名でスタートし、就学前教育・保育の重要性を再確認すると共に、地域の保育園・幼稚園・小学校、老人福祉施設との交流なども積極的に行い、広く地域交流を図った。

保護者対応に関しては、日々の情報交換のみならずクラス懇談会、個別懇談会、行事を通してコミュニケーションを密にとり、保護者の気持ちに寄り添い、ともに子どもの育ちに共感しあいながら、パートナーシップとして二人三脚で歩むような密接な関係を築くよう努めた。

職員間の情報共有に関しては、職員会議をはじめとする各種会議や定例打ち合わせなどを定期的で開催するほか、緊急性のある場合などは必要に応じ、連絡会・検討会などを適宜開催し、子どもや保護者の情報、危機管理情報などの共有や、連絡・指示命令の即時伝達など、可能な限りダイレクトでタイムリーな情報周知の徹底を図った。

園内における職員間の連携については、以前から継続して取り組んでいる課題である。これには情報共有と相互理解が不可欠であり、これらを推進するために、情報発信や情報交換がスムーズに行えるような仕組みと風土づくりが必要であり、課題として現在その整備に取り組んでいる。

また、「さいたま保育園」との施設間連携において、保育・教育連携として幼児クラスの交流を行い、職員連携として研修の合同実施や新入保育士の保育研修の受け入れ、勤務のヘルプ体制等を通して人的交流を図るなど、一歩ずつ確実に進み始めている。今後、相互の保育・教育効果を深めるためには、幼児や職員の交流を活発化させていくことが必要で、遠足、人形劇など行事の合同開催や、プレイルームをはじめとする保育施設の相互利用など、日常の中で恒常的に交流が図れるよう努めたい。

行事については、運動会を9月下旬、第四小学校にて行った。他にはつぴょう会、遠足、おとまり保育、月ごとの誕生会など季節の行事を中心に行った。内容の充実に努めた結果、行事を通して子どもたちは大きく成長し、保護者にはその姿を感じていただいた。

東京都23区を中心に和光市や近隣行政の諸施策などに関してもアンテナを高くして対応していき、保育園の新たな設置など将来に向けての発展的展開などを試みていく。

保育の充実、保育の質の向上、新たな事業展開を図るなど、いずれにしても重要ポイントは、職員の確保と定着、人材育成、職員のスキルアップなどのいわゆる「人」の問題である。働き方改革が叫ばれている現在、1～5年先を見据えて人事体系を構築していくこととしたい。

2019年度 諏訪ひかり保育園園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	8	15	18	18	18	17	94
5月	8	15	18	18	18	17	94
6月	8	15	18	18	18	17	94
7月	8	15	18	18	18	18	95
8月	8	15	18	18	18	18	95
9月	8	15	18	18	18	18	95
10月	8	15	18	18	18	18	95
11月	8	15	18	18	18	18	95
12月	8	15	18	18	18	18	95
1月	8	15	18	18	18	18	95
2月	8	15	18	18	18	18	95
3月	8	15	18	18	18	18	95
平均	8	15	18	18	18	18	95

(2) 病児・病後児保育室「やわら」

病児・病後児保育も周知が進み、病児登録数は伸びるも年度前半は感染症が流行することもなく利用数が上がらなかった。また、後半も新型コロナウイルス感染症の発生と共に、利用数が格段に減ってしまった。感染症の流行に伴い、利用者の変動は激しいが、病児保育を必要としている保護者・職員の要望に応え、体制を整えながらより多くの受け入れができるようにしていきたい。

2019年度 病児・病後児保育室「やわら」利用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
人数	8	20	17	12	7	16
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	12	8	15	13	11	3
合計	142人					

(3) 一時預かり保育

一時預かり保育に関しては人員が配置できず、一時休止でのスタートとなる。市内他2園も同じ理由で一時保育を休止する状態となる。1月からは人員配置が可能となり一時預かりを開始するも、新型コロナウイルス感染症の拡大により、キャンセルが増え、利用数につながらなかった。

2019年度 諏訪ひかり保育園 一時保育利用状況

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計(人)
4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0

7月	0	0	0	0
8月	0	0	0	0
9月	0	0	0	0
10月	0	0	0	0
11月	0	0	0	0
12月	0	0	0	0
1月	7	0	0	7
2月	8	12	0	20
3月	6	0	0	6
合計	21	12	0	33

(4) 職員研修

キャリアアップ研修を中心に、一人ひとりの専門性に向けた研修に取り組むように努めた。園内における講師を依頼してのピアノ研修も定着しており、苦手意識をなくし、楽しんで個々の課題に取り組む姿勢が保育にも表れてきている。また、職員希望により外部音楽講師を招き、職員全員が同時に同じ研修を受けたことで、より保育への思いをすり合わせ、スキルアップと共に一体感を広げることが出来た。人材育成に関しては、発達支援や保育の技術アップ研修に参加すると共に、職員も定着してきているので埼玉県のカリヤアップ研修を受講し各科目を終了している。またコミュニケーション研修として、第3回目のディズニー研修を実施した。参加園も増え、同じ法人の職員と交流することで日々の保育の大きな参考となった。

また専門性を磨くために、外部研修にも積極的に参加し、それぞれの課題を捉え研修に努めた。

4 公益事業

4-1 放課後児童クラブキッズガーデン

2019年度は、毎日コース59名、夏休み利用予定79名でのスタートとなった。毎日コース児童のうち3分の2は、個性育成プログラムの習い事に1～5つ程度取り組んでおり、意識の高さとニーズを感じている。今年度のねらいとしては、子どもの主体性を大切にする事とし、大きな行事は、リーダー制で活動を行い、高学年がグループをまとめたり、低学年に指示を与えたりし、責任感を養う事を意識して過ごした。また、自分の意見を述べる練習として、週2日「1分間スピーチ」の場を設け、全学年が発表の内容を自分で考え、皆に伝える経験をした。子どもの才能を活かす為の環境づくりを怠らず、さらに進化させる為にも指導員の意識改革は必須と考える。また、スマイリー保育園・大岡学園との連携や交流もさらに深めていくこととしたい。

2020年度 キッズガーデン在籍、利用者数 (人)

	毎日コース	個性育成コース	一日預かり・一時利用
4月	59	3	6
5月	59	3	1

6月	60	2	0
7月	60	2	2
夏休み	59	2	20
9月	58	2	0
10月	57	2	0
11月	55	2	0
12月	54	3	5
冬休み	54	3	4
1月	54	3	4
2月	54	3	2
3月	51	4	6
平均	56	2.5	3.8

2020年度行事報告

4月	はじめまして会・公園遊び
5月	途中が丘公園～ミルク工房そら
6月	魚っ知館
7月	円山川プール・工作教室・竹野磯観察
8月	今子浦海水浴・お泊り会・円山川プール・人と自然の博物館
9月	園内活動
10月	ユートピア篠山(雨天により中止)
11月	キッズプラザ大阪
12月	クリスマス会・但馬サッカー協会運動遊び
1月	円山川公苑スケート
2月	円山川公苑スケート
3月	京都太秦映画村(コロナ感染防止閉園の為、中止)

4-2 さいたま保育園

2019年度4月から定員72名(地域枠1,2歳児各10名を含む)となり、園児の増員に伴い、職員の数も増えたが大きな問題もなく職員同士の連携も取れていた。

諏訪ひかり保育園ともいくつかの行事、職員の研修を一緒に行うことで連携を行った。

園児、職員が増え、園内研修を行うことが難しかったが、キャリアアップ研修など今まで参加しなかった研修にも参加することができた。

今まで以上に園内外の研修に参加し、職員間でも共通理解をし、質の向上を求めていくようにしていく。

2019年度 さいたま保育園園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	2	23	17	6	3	2	53
5月	4	23	18	8	4	2	59
6月	5	23	19	8	4	2	61
7月	5	25	19	7	3	2	61
8月	6	25	19	7	3	2	62
9月	7	25	19	7	3	2	63
10月	12	26	19	7	3	2	69
11月	14	27	19	7	3	2	72
12月	15	27	19	7	3	2	73
1月	17	26	19	7	3	2	74
2月	17	25	19	7	3	2	73
3月	17	24	19	6	2	2	70
平均	10	24, 9	18, 7	7	3, 1	2	65, 8

4-3 こじか保育園

独立行政法人国立病院機構下志津病院の院内保育園である「こじか保育園」の運営3年目となった。

平成30年度から派遣事業として始まった下志津病院での病児・病後児保育では、下志津病院に貢献した部署として、年末には院長賞を受賞した。病院内の病児・病後児保育担当者とも密に連絡を取り合い、昨年度より更に円滑に進めることが出来た。

また、保育の見直しをするために、令和元年度は、明德短期大学の教授を招き園内研修を行った。それぞれの職員が今までの保育を振り返り、新保育所保育指針を基に、今後どのような保育をしていくか、どのような保育をしていきたいかを確認することが出来た。

令和2年3月末、期間満了で運営を終了した。

2019年度 こじか保育園園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	1	10	9	5	7	4	36
5月	1	10	9	5	7	4	36
6月	1	10	9	5	7	4	36
7月	3	10	8	5	7	4	37
8月	4	10	8	5	7	4	38
9月	4	10	8	5	7	4	38
10月	4	10	8	5	7	4	38
11月	6	10	8	5	7	4	40
12月	6	10	8	5	7	4	40
1月	7	10	8	5	7	4	41

2月	8	10	8	5	7	4	42
3月	8	10	8	5	7	4	42
平均	4.4	10	8.2	5	7	4	38.6

4-4 つくしんぼ保育所

(1) 保育・運営

平成30年12月より新園舎が完成し、事業所内保育事業を開始、定員を10名増員し地域枠の園児の入園も可能となった。地域枠での園児も定員に達し、新しい形でのつくしんぼ保育所として動き出した。

園児増員に伴い、保育士の確保に努めたが、確保につながらず派遣社員等を使いながら保育士募集を続け、年度末に充足することとなった。

また今年度は、保育内容の見直しや業務改善に力を入れ、パソコンやキッズリーの導入等、時代のニーズ合わせた対応を行い、働きやすい環境作りを心掛けた。

園内外の研修を充実させ、職員のスキルアップを図るとともに、病院・保護者の意見を取り入れ、よりよい保育を心掛けいきたい考えている。

2019年度 つくしんぼ保育所園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	9	6	8	6	7	7	43
5月	9	6	8	6	7	7	43
6月	9	6	8	6	7	7	43
7月	8	8	8	6	7	7	44
8月	8	8	8	6	7	7	44
9月	6	11	8	5	7	7	44
10月	6	11	8	5	7	7	44
11月	4	13	8	5	7	7	44
12月	4	13	8	5	7	7	44
1月	6	13	9	5	7	7	47
2月	6	13	9	5	7	7	47
3月	7	13	9	5	7	7	48
平均	7	10	8	5	7	7	44

(2) 研修

- ・千葉保育のつどい 『子どもの言葉と心の育ち』
『乳児のあそびと生活』
『造形活動の講義と実技』
『笑顔がはじけるあそび・いろいろ』
『幼児教育・保育の無償化どうなるの?』
- ・聖徳夏期保育大学 『健やかな育みを求めて』
『幼児期運動指針を踏まえて、子供たちの運動あそびを考える』

『気になる子の支援 3 法令と気になる子の援助』

『保育士に求められる最新の医療の知識と手技』

- ・サマーカレッジ実技研修
- ・主体性について 0～2歳児の重要性
- ・アレルギー疾患対策研修会

5 法人としての主な報告と今後の課題

5-1 法人・園運営改善について

- ① 理事会を8回開催し、さまざまな課題に関して協議を行うと共に、円滑な経営、運営に努めている。
- ② 評議員会を2回開催し、さまざまな諮問に対して審議し、円滑な経営、運営に努めている。
- ③ 理事会、評議員会に関する役割について明確化し、取り組んでいる。
- ④ 法人本部機能を強化し、法人と施設の円滑な連携について、推進及び改善に努めている。
- ⑤ 保育園の定員超過に対して、各地域の状況、調査・検討を加え、新設園、分園を設置するなど具体的な取り組みを行った。
- ⑥ コンプライアンス委員会を設置し、法人内の取り組みの確認を行うと共に、各施設で研修会を行った。
- ⑦ 幼保連携型認定こども園に対する取組み、保育指針の改定に伴い、保育課程を作成し、年、月の指導計画を継続して検討し、改善を加えながら、変更を図った。
- ⑧ 経理規程を見直した。
- ⑨ 総合福祉研究会などとの連携により、会計システムの円滑な処理、整備を行っている。
- ⑩ 社会保険労務士など専門家と協議し、各施設に合致した就業規則、給与規定など職員の処遇などを制定し、実行すると共に、人事考課など人事システムに関する検討を行った。
- ⑪ キャリアパスに合致した体制作り、諸規定整備に向けた検討を行い、施設長へ具体案の提示を行った。2020年度中に神戸地区においてプレ実施し、2022年4月の本格実施を目指した取り組みを行うこととしたい。
- ⑫ 職員資質向上のための研修や実践を行った。
- ⑬ 苦情解決システムの強化を図り、「保護者対応及び職員ケアに関する指針」を定め、一層の円滑化と活用を行う。
- ⑭ 専門家の支援体制を活用すると共に、公認会計士による外部監査を行い、経営改善に努める。
- ⑮ 第三者評価を受審すると共に、各種のマニュアルを整備、改善に努め、実践に努めている。
- ⑯ 子どもの育ちを客観的に把握するためのシステム、体制整備に努めている。

- ⑰ 平成 29 年 4 月に開始された社会福祉法人改革に伴う諸準備を進め、行政や社会福祉協議会、各種専門セミナーに積極的に参加すると共に、専門家の助言を受けながら、諸手続きを行い、必要に応じて改善に努めている。

5-2 日常業務関係

(1) 防災・危機管理体制の充実について

- ① 防災マニュアルを整備し、訓練に生かすと共に常に見直し、改善に努めている。
- ② 様々なケース(内容、時間、場所)を想定しての避難訓練の充実を行う。
- ③ 危機管理体制の一層の整備を行う。
- ④ メールの一斉配信など、個人情報保護を鑑みつつ、緊急時の保護者との連絡体制の整備を行い、円滑な連携システムが整い、円滑な活用となっている。
- ⑤ 救急救命の講習を継続して実施すると共に、AED の使用法など継続した研修を行い、命を守る職場環境整備になお一層努める。

(2) 園務・経理の効率化

- ① ネットワークシステムを構築し、情報共有や情報保護に取り組み、平成 29 年に本格稼動したが、継続的な見直しを行い、業務改善に努めることとしたい。
- ② 経理事務に関しては、施設との連携の円滑化が推進されると共に、ミスの最小化に向けた取り組みを行い、ミス 0 を目指した体制を構築している。
- ③ LAN システムを活用すると共に、パソコン等を拡充し、業務効率化を推進し、一層の充実を図っている。
- ④ 保護者、職員等とのメール配信、連絡など活用方法をなお一層工夫し、相談業務等への充実、活用を図る。
豊岡拠点で 2019 年 4 月より、保育支援システム キッズリーの導入によりタブレット端末を活用した取り組みを行っている。
- ⑥ 個人情報保護を念頭に、データ管理の整備を行い、ペーパーレス化を一層推進している。
- ⑦ 経理システム、給与計算、栄養計算など関係するソフトを継続して更新し、一層の業務効率化を進める。
- ⑦ 月案・週案など日常業務について、コンピュータ処理化を図り、円滑な運用を行なっている。豊岡拠点ではキッズリーの活用により、業務円滑化を推進している。
- ⑧ ホームページをリニューアルすると共に、職員研修を行って、職員でも対応できるような体制整備を進めている。
- ⑨ ウェブ環境のなお一層の充実を図っている。

(3) 各種研修の実施

- ① 全職員を対象に各拠点で、コンプライアンスに関する研修を行った。
- ② 保育内容充実に関する研修について、積極的に参加した。
- ③ 情報共有に関する勉強、取組みを積極的に行った。
- ④ 法人として、メンタルヘルスケア研修を継続して行った。
- ⑤ 保・幼・小連携など、地域の研修に積極的に参加した。
- ⑥ 運動遊びなどの体育の研修に積極的に参加した。
- ⑦ 他の保育園、幼稚園、児童館等の施設見学、教育内容、保育内容の研修に努めた。
- ⑧ 保育関係団体主催の研究大会、セミナー等へ積極的に参加し、フィードバックに努めた。
- ⑨ 保育制度改革に伴う、各種セミナー、勉強会に積極的に参加した。
- ⑩ 社会人としての常識、マナーなど社会性を身につける研修を積極的に取り入れた。
- ⑪ パソコン活用を推進し、IT研修を積極的に行い、レベルの均一化と共に高度化、専門化に向けた研修を行なっている(ホームページ、メール、インターネットの活用、業務効率化)。
- ⑫ 園児に関する基本データを活用し、保育の実践に役立てている(保育支援システムの導入と活用)。
- ⑬ 第三者評価を受審するための勉強会、フィードバック研修などに積極的に参加し、整備に努めている。
- ⑭ 社会福祉法人改革に伴う、各種の勉強会、研修に参加し、具体的対応を行った。

(4) ホームページ・各種連絡について

- ① ホームページ等の定時更新を行うための体制整備を行っている。
- ② 園だより、給食だより、クラスだよりなど、定期的なお便りの充実を行い、配布を行っている。
- ③ 園行事等に関して、受付場所にPC・テレビを配置し、情報配信し、高い評価を受けている(諏訪ひかり保育園)。
- ④ メール通信を活用し、行事予定のお知らせ、欠席者の報告や伝言について、迅速かつ正確に行っている。
- ⑤ 個人情報保護や育児相談の観点から、なお一層メールを活用した連絡網を確立し、子育て支援に役立てている。
- ⑥ 法人と施設の連絡において、連携ミス等があり、今後改善に努めたい。
- ⑦ メールアドレス・パスワードなどセキュリティの充実、システム開発に取り組んでいる。

(5) 受付業務

- ① 電話応対について、個人名呼名が定着し、高い評価を受けている。
- ② コミュニケーション能力を向上させ、臨機応変、即時の対応については、

今後一層研修に努め、情報共有化などを推進している。

- ③ メールを活用など、受付業務、連絡業務の改善を行っている。

(6) 食育の推進（各施設共通の課題として）

- ① 一汁三菜などメニューの抜本的な見直しを行い、改善に努めている。
- ② チャイルド農園での野菜の栽培などを活用した実践的な食育活動の展開を行い、一定の成果をあげている。村雨こども園でも同様に、屋上園庭において、菜園を設け、食育の一助になっている。
- ③ 栄養士を中心に保育士と連携し、年間食育計画を作成し、食育についての研究、研修活動を積極的に行った。
- ④ 園児の個別のアレルギーの聞き取りを行うなど、離乳食、アレルギー除去食、病児食など献立、食材など一層の工夫を加え、更なる充実を図っている。
- ⑤ 「お料理室たより」などを通じて、食育指導、栄養指導、健康面での啓発活動に取り組んでいる。
- ⑥ 食指導において、家庭との連携が課題となり、保護者指導などを行う必要がある。
- ⑦ 毎日、献立サンプルの展示を行っている。
- ⑩ 健康増進について啓発活動を行い、実践する。

6 新規事業

(1) 豊岡拠点

- ①チャイルドハウス保育園のこども園移行に向けた取り組み
- ②隣接地の整備（園庭、小規模保育園等）

(2) 阪神拠点

- ①村雨こども園環境整備
- ②松風第二児童館設置に向けた取り組み

(3) 首都圏拠点

- ①諏訪ひかり保育園のこども園移行（分園設置等含む）に向けた取り組み
- ②さいたま保育園定員増加への取り組み

(4) 2020年度重点事業

- ① 東京都における認可保育園開園に向けた調査及び具体的取組み
- ② 放課後児童クラブ・複合型施設及び児童館への取組み（豊岡）
- ③ 就労支援・就労移行支援事業への取組み（豊岡）
- ④ 多地域多機能多施設への取組み
- ⑤ その他、アンテナを高くして対応

まとめにかえて

新型コロナウイルスが猛威を振るい、従来の価値観が変わってくる状況にあつて、さまざまな判断、行動が求められる。

パラダイムシフトの変化が現実のものとなり、保育・教育の在り方も抜本的に見直さないといけない状況となつてきている。

園児、保護者、地域を大切にしながらも、職員のモチベーション維持・向上が最も大切であるということを改めて認識し、再構築を図っていくこととしたい。

サンタ（多地域・多機能・多施設）を充実させ、それぞれの地域に必要な不可欠な存在となりうるように取り組みを進めていくこととしたい。

本法人として、現下の状況で、何をどのように実践していくのか、選択と集中を進め、実践的な準備を進めていくこととしたい。

意思疎通、情報共有を大切にしながら、法人本部と施設が密に連携した経営・運営を行い、一層の充実を図るものとする。

キッズリー等保育の業務効率化に加え、WEB環境の一層の充実は、必要不可欠であり、迅速な対応が求められ、法人としての取り組み姿勢が問われている現状であります。

いずれにしても、教育・保育の質を担保しながら、より広い視野での福祉・教育の実践を行い、なくてはならない存在として、法人・施設の機能、役割を見直しながら、新陳代謝を進める取り組みを行うこととしたい。

昨年度から課題である、中長期計画を2020年度には策定し、今後の具体的施策の礎としていくこととしたい

法人と施設の円滑な連携、PDCAを大切に、役職員すべての叡智と行動によって、一步一步着実に歩むこととしたい。